

イオンリテール採用部部長 服部氏が講義

小売業の現状と求める人材像 「優秀な学生は、売り手市場」



経営・田口教授の流通論で

田口冬樹経営学部教授 売業者・小売業者のその
の流通論は、生活に欠か ぞれのマーケティング戦
すことのできない商品や 略、流通の役割と消費者
サービスの生産から流通 の満足などを講義テーマ
の仕組み、メーカー・卸 としている。

12月3日の講義では、理論と実践の融合のため、イオンリテール(株)の服部春樹・採用部部長を講師に招き、小売業が果たす役割と現状、業界が求める人材像などを語ってもらった。写真：服部氏は、消費低迷、低価格化といった厳しい状況の中で勝ち残っていくには、「状況に応じた経営戦略の修正と消費者のニーズへの素早い対応が力である」と話し、就職活動を目前にした学生に対しては、「景気が悪化しても優秀な学生は、売り手市場。企業は、自ら考え行動できる人、『聴く力』が優れている人を求めている」とアドバイスした。

川崎市・NCネットワーク寄付講座

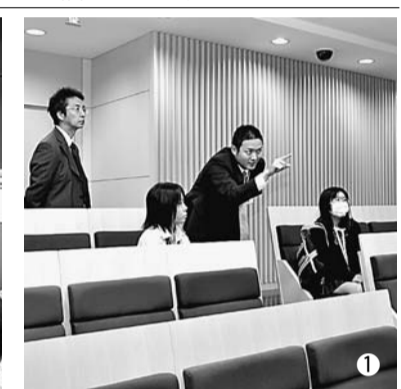
中小企業の魅力・ 活力を経営者が語る

池本正純経営学部教授 川崎市経済労働局工業振
担当の「川崎市・NCネ 興課と、中小の製造業を
ットワーク寄付講座」が 支援するネットワークサ
後期に全10回行われた。 ービスを展開する、NC



ネットワー クの内原康 雄代表取締役 (昭63経 営)が協力 した。 日本の製 造業を支え る中小企業 の経営者 に、経営の 実際を語っ てもらった。 学生 どを話した写真。

私たちは産業構造の厚みに 気づき、さまざまな企業 が知名度の高い消費財メ ーカーを支えていること を知る機会となると同時 に企業観や職業観を豊かに し、社会に出ていくモチベーションを上げること を目的に行われたもの。



1日体験入学やキャンパス見学 成果上がる 高 大 連 携

9月から12月にかけて付属高校や高大連携協定校との連携活動が行われ、1日体験入学やキャンパス見学などを通じて専大の教育方針やキャンパスライフを認識してもらった。

神奈川県立座間総合高校(写真①)

9月24日、生田キャンパス。1年生3人が施設見学を行い、大学紹介ビデオ観賞のあと、学生食堂での食事など、キャンパスライフを楽しんだ。

東京都立成瀬高校(写真②)

10月10日、生田キャンパス。1年生全員280人を対象とした「1日体験入学」。寺尾格経済学部教授の模擬授業を受講後、専大生引率による施設見学を行った。

専大松戸中学(写真③)

11月14日、生田キャンパス。将来専大松戸高校進学予定の、専大松戸中学3年生30人を対象とした「専修大学見学会」。専大生とのフリートークキングのほか、施設見学を行った。

神奈川県立生田東高校(写真④)

12月10日、生田キャンパス。1年生全員241人を対象とした「1日体験入学」。望月俊男ネットワーク情報学部講師の模擬授業を受講後、専大生引率による施設見学を行った。

専大附属高校(写真⑤)

12月19日、生田キャンパス。2年生432人と保護者17人が「附属フェスティバル2009」に参加。17学科の学部学科説明や模擬授業を受講したほか、付属4校の出身者でつくるHi・Yo・Coの会による学生企画で専大ライフ全般を学んだ。

神奈川県立神奈川総合高校(写真⑥)

11月19日、狐崎知己経済学部教授が同校で「プレゼンテーション」と「グローバル学習」の特別授業を行った。

神奈川県立川崎高校(写真⑦)

12月21日、生田キャンパス。1年生全員240人を対象とした「1日体験入学」。2グループに分かれ、嶺井正也経営学部教授、砂原由和ネットワーク情報学部教授の模擬授業を受講後、専大生引率による施設見学を行った。



クリスマスカードの書き方も

ゼロから学べる ベトナム語講座

国際交流センター主催

「ゼロから学べるベトナム語講座」(国際交流センター主催)が10月26日校であるベトナム国立大学ハノイ校から留学中から留学中の経済学部特別聴講生のフナム・ティ・フォン・ミンさん(経済3)は「6つ特別聴講生の声調があるベトナム語は難しいですが、やりがいがあります。もっと勉強して現地で交流できる人になりたい」と話し13人はほとと。



一人ひとりにていねいに指導から留学中の経済学部特別聴講生のフナム・ティ・フォン・ミンさん(経済3)は「6つ特別聴講生の声調があるベトナム語は難しいですが、やりがいがあります。もっと勉強して現地で交流できる人になりたい」と話し13人はほとと。

平成元年「セクハラ」元年

2009年新語・流行語大賞の年間大賞は、「政権交代」に決まりました。さて、「セクハラ」という言葉は、20年前の1989年(平成元年)に新語部門・金賞を受賞した言葉は一体何だったでしょう。正解は「セクシャル・ハラスメント」です。1986年にある女性が執拗な嫌がらせをしてきた酔っ払いを駅で転落死させたという事件が起きました。翌年、女性の正当防衛が認められ、無罪判決が言い渡されたのですが、このことから「セクハラ」という言葉・概念が頻繁に取りざたされるようになり、金賞受賞となりました。学生の皆さんの中には、今年成人式を迎えた人も多いでしょう。実は、皆さんと共に、欧米から輸入された「セクハラ」も、日本で20歳になったのです。あの事件か

セクシュアル・ハラスメント防止委員会から

ら、日本のセクハラを取り巻く状況は変わって進み、「セクハラ」という言葉は、以前と比べ浸透していると思われませんが、会社においても、大学においても、その自身の理解はまだまだ進んでいないようです。実際、昨年中も全国の大学でセクハラをめぐる処分が相次ぎました。大学が学問の場であることは言うまでもありませんが、同時に、社会との懸け橋としての大きな役割を担っています。特に、本学は「社会知性の開発」の旗印の下、「深い人間理解と倫理観」の育成も目標に掲げています。「セクハラ」と時を二にして成人となった学生の皆さんに、新しい時代の若者として、セクハラ根絶の先頭に立つてもらいたいと切に願っています。(中村 政徳)